

協働でひらく教育の未来

デジタル教科書教材協議会(D-I-T-T)会長

小宮山

宏

2018/01/01
教育家庭新聞



今春より小学校でのプログラミング教育の段階的導入が決定し、論理的思考・情報活用能力の強化・主体的な深い学びの実現と共に、他者や世界とつながり、教え合い、

学び合う「協働学習」の成果に注目が集まっています。昨年11月には、D-I-T-Tの掲げてきたICT教育に通じ、この現状とも重なるニュースが飛

び込んできました。世界の15歳の子供を対象とした国際学力調査「PIISA」で、日本の子供は「協同して問題解決する力」が参加した52か国の中で2位となり、1人よりも集団のほうが課題解決に力を発揮できるとの見解がなされたのです。

私がドバイの国際知識賞(Knowledge Award)の受賞の際に評価して頂いた「プラチナ社会」構想でも、「豊かなさ」「環境保護」「人間の幸福」を同時に達成するためにICT技術を社会に積極的に対応さ

せ、課題解決を図ることを理想としています。これまでになかったテクノロジーを別の分野に活用する「発想力」、そして世代間を超えた「協働」は新たな世界を創造する希望です。本年、私たちD-I-T-Tは、未来の教育をデザインするツールとしてICTを捉え直し、昨今の様々な教育課題に対応する組織に生まれ変わりたいと考えています。より広い世界へと視野を広げ、様々な機関・人々と「協働」を進め、豊かな教育社会を進めていく推進力となる所存です。